兵庫・出合遺跡

1　所在地　兵庫県神戸市西区玉津町出合

2　調査期間　一九七七年（昭52）四月～現在

3　発掘機関　瀬戸内考古学研究所

4　調査担当者　鎌木義昌

5　遺跡の種類　官衙関連遺跡・集落跡・水田跡・古墳

6　遺跡の時代　弥生時代～鎌倉時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

出合遺跡は明石川下流の西岸に位置し、明石郡衙跡と推定される吉田南遺跡とは約二km離れている。

（高砂・明石）

発掘調査は住宅・都市整備公団の宅地造成のための事前調査として一九七七年より行われ、現在にいたっている。木簡の出土は一九八二年二月の調査時である。

遺跡は比高差約一四mの台地上と台地下にまたがり、台地上では奈良時代後半から鎌倉時代初頃の掘立柱建物群、五世紀後半から六世紀中頃の古墳四基、台地下では古墳時代の竪穴住居跡群、平安時代末から鎌倉時代初頃の掘立柱建物群、鎌倉時代初頃以降の水田跡などが検出された。

木簡が出土した遺構は奈良時代後半の掘立柱建物に伴うと考えられる一辺約二・三m、深さ二・八mの方形の素掘りの井戸である。建物は六×四間の総柱建物（東西棟）と五×二間の建物（南北棟）で、前者の柱掘方には平瓦、丸瓦が投げ込まれていた。井戸はこの二棟の建物の東南部に位置する。また、この二棟の建物とは主軸の方位がややずれるが、西方約一三m離れて三×三間の総柱建物が二棟検出されている。

木簡は井戸の最下層で奈良時代後半の土器と共に出土したが、井戸出土の主な遺物としては他に墨書土器・転用硯・製塩土器などがある。また、距離が少し離れているため直ちに関連づけることはできないが、銅製の巡方が一点出土している。

以上のような遺構、遺物の状況からこの井戸を伴う建物群は官衙に関連するものではないかと推測される。

8　木簡の釈文・内容

(1)　・「　工二人
　　□仕四人
　　一升　工二
二日用米　三日用□仕四

木簡(1)

・「□　□□廿石三斗　147×(27)×2　019

(2)
・□今日□来□□米〔鮨カ〕□□□〔三カ〕此日□□
□□□□□

・□□〔四カ〕□□□□□　□□□□□□　(172)×(19)×4　081

(3)
「□成□□〔田カ〕□□……□人　真成田人　子□×
(100+114)×25×6　019

(4)
「今日　(61)×37×4　019

(5)
□□□□□□　091

(6)
□一〔加カ〕□　091

(1)・(2)はいずれも文書木簡である。(1)は米支給量を日ごとに書きあげたもので、「某日用(米)」と記し、その下に支給先の内訳を記す書式である。(3)は二本になっており、そのままでは接合できないが、本来そのままつづいていた可能性はある。

末筆ながら、木簡の釈文等において東北大学今泉隆雄先生にお世話になったことを明記し、謝意を表します。

(鎌木義昌・亀田修一)